

林凶煩遊

順正寺
寺報
2021.5

永代読経法要

五月十六日(日)

午前十一時三十分より

読経(衆僧総供養)

法話

風薫る五月、貴家皆様にはご清祥にて、お過ごしのことと存じます。

さて、今年の「永代読経法要」はコロナウィルスの拡散を防ぐためご参詣を二十五名に制限してお勤めいたします(要予約)

ご参詣の方はお手数ですが事前にご連絡下さいますようお願い申し上げます

「永代経」とは、「私」が子供や孫そして子孫の幸福を願うと同じように「私」に、幸せであって欲しいと願って下さっている仏となられたご先祖に感謝の思いを込めて僧俗共に勤める大切な行事です

常日頃、生活の多忙さにかまけて、つい忘れていらっしゃるご先祖のお蔭に気づき、仏恩報謝のひと時を共にすごしましょう。

当山順正寺では永代読経志を左記に定め、順正寺永代読経過去帳に記載し永代供養致しております。ご希望の方は住職までお申し出下さい。

* 特別永代読経(毎月ご命日読経、祥月命日特別読経)

志納金参拾萬円以上

* 永代読経(毎月ご命日読経)

志納金壹拾五萬円

「永代経」くいつでも、どこでも、だれでもく

♪こんにちはくこんにちはく世界の国からく♪これを知っている人も少なくなりつつある今日この頃皆様いかがお過ごしでしょうか。先日、この大阪万博の跡地に残る「太陽の塔」に行きました。1970年のこんにちは、ですから今から5年前です。この年、私は得度（僧侶となる儀式）を受け、そのついでに万博に連れて行ってもらいましたが夏休み中という事もあり想像を絶する混雑で件の「太陽の塔」には入れませんでした。よって51年ぶりにリベンジを果たしたわけですが、気づきました。が正式に僧侶となつて51年（デビューは3歳頃なので、57年前）、真宗大谷派教師（住職となれる資格）を取得して38年、住職に就任して16年、勤め人の知人たちは去年、定年退職をして新たな生活に踏み出している中私は死ぬまで僧侶なので相変わらずです。でまた気づくわけです。何年くらい相変わらずと言いつづけているのだろう。この寺報を発行するようになっておそらく30年以上たちますが当初より相変わらずと書いていたような気がします。30年前だと30歳ですから変わらないわけがない、特にここ何年かはどんどん老いぼれてきていますし、結婚したり子供が生まれたり、住職になったり、父が亡くなつたりと当然変わり続けているわけです。まあ、日々の生活に追われ、何とか凌いでいるというベースの部分は父の代より変わりませんが。それも実際は「お陰さままで凌いで来た」なんだから。

前述した真宗大谷派教師資格は宗門の大学、大谷大学で取得しましたがこの当時学風がユニークで、まあお寺の子供ならわりと簡単に入学でき、卒業もお情けでできました。というのも、僧侶は卒業してから本当の学問に取り組まざるを得ない、一生涯掛けて信心を確かめ僧侶となれと云う事だったようです。因みに後輩の名誉の為に言いますが昨今では入学も卒業もとても難しいらしい。

さて、わりと簡単にといいところが浄土真宗の面目躍如なのです。親鸞聖人はご和讃に阿弥陀さんの救いを端的に「男女貴賤ことごとく、弥陀の名号、称ずるに、行住坐臥もえらばれず、時処諸縁もさわりなし。」と詠まれています。お他宗では厳しい修行、崇高な学問を納めなくてはならないので、知力、体力に恵まれた特別な人しかその道を歩めませんが、浄土真宗の仏道は僧俗問わず、お陰さまを忘れて「相変わらず」なんて言ってしまう呆け者こそ歩める道なのです。うん、歩める道が有るんだから良しとしよう！

毎日ブログ(インターネット)に晒す日記のようなもの(というものを書くようになって一年が経とうとしています。今日現在、一日も欠かすことなく、泊まり込みの研修に行った際も更新できているので、自分を褒めてあげたいところなんです。丸一年、皆勤賞できるまではお預けにしておこうと思っている次第。

このブログは、昨年ホームページを新しくする際、せつかくなので、毎日のようにUPしている「今日の写真」と「今日の言葉」以外にも、何かしら新たに自分から発信できればな、と思いたち始めたので、す。「今日の言葉」というのは、毎日、誰かしらのひつかかった言葉を順正寺のFacebookページというところに、もう十年近く毎日のように、その日の朝、自分で撮ってきた写真と一緒に載せてきたのですが、ま、自分の言葉も発信してみようという無謀を始めてしまったというわけです。

で、これがすこぶる評判がよろしくない(笑)

ともかく、文才がないので支離滅裂なものと、愚痴っぽいのと、勢いで打ち込んで確認をしないから誤字脱字が多いので、非常に読みにくいし、理解しにくい。そこにもつてきて、内容にまったくお徳感がない。それどころか、読んでみると、気持ちが悪えさせられるような言葉が並ぶ。読者が増えないどころか減っている始末です。

なにしろ、「今日の言葉」の選びもそうなのですが、こうしたらこうなつてハッピーになりますよ!みたいなハウツー系が嫌いなもので、どうしても、現実を見る、自分を確認しろ、お前はそれで良いのか?、社会常識なんてもん、つて具合の言葉ばつか選んできませんし、ブログも基本、ハタからすればつまらない今日の出来事を切り口に、一般的にはネガティブと捉えられがちな考えを殴り書いているので、気分が暗くなると言われたことも数回あります。

でもね、こうしたらこうなります、とか、こうこうこういう場合はこんなふうにつまれば気分爽快、なんて嘘くさいことは書けないんですよ。こうしたらこうなる、こういうときはこういうふうに対処している、つてその場しのぎ、対症療法的、ごまかしのものはわたしにもありますが、でも、それつてその場はなんとかやり過ぎさせたとしても、なんの根本解決にもなっていないんですよ。そういうのも生活していく上では大事でしょうが、人様に開陳するものではないと思うのです、嘘だから、ごまかしだから。

わたしの中にあるのは、面倒くさいかもしれませんが、「答えはない」ということなのです。「問い」があるだけで、問いが新たな問いを生み出し、それが、わたしで留まることなく、絶え間なく引き継がれていく世界が「人間」という生き物の大切な営みであると思うんです。問いを共有することで、そこに互いの関係性が成り立ち、自分の居場所が相手の中に確認もでき、突き詰めると、時間と空間を超えて、「問い」が連続して繋がっていくところに「わたしの確認」をするのが仏法が示す「存在」じゃないかなと思うのです。わたしの問いは、時空を超えた過去現在未来を貫く問いである、というのが仏法の説く、釈迦が気づき、親鸞が生きた、人間という生物をつなぐ教えなのではないかなと思うわけです。

この「問い」の時代を超えた共有、「問い」のバトンタッチのことを「永代経」というのでは、いま、そんな事を考えているわけです。

と、まあ、こんな感じのことを、毎日毎日、ブログとして上げているわけで、そりゃ、あんた、評判いいわけ無いでしょ(笑)。お徳感ゼロブログを敢えて、今回は「寺報」でやってみました(*、*) この文章を読んで、それでも興味があるという奇特な方は、覚悟して、私のブログ読んでみてください。たまにいいこと書いてます(?)。 副住職

法要のおときをお休みして一年が経ちました。順正寺のおときは、昨今東京の寺院では希少な婦人会の皆さんの手作りで。法要前日から準備を始め当日早朝より婦人会の皆さんが手際よく、にぎやかに支度して下さっている様子は子供のころからウキウキする楽しいものでした。その光景が久しく見られないのは残念です。早く再開できるといいのですが。それでも、法要自体は有り難いことに皆様お運び頂けるのでお陰さまでお勤めできています。

この度の疫病で世間は大きく様変わりしています。順正寺も変わるべきところ、変わらず続けられることをよく見極めて仏道を歩み続けていきます。

皆さんも一緒に歩みましょうね。

合掌 住職

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。また土曜、日曜に行われる一日葬が増え、その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い致します

定例行事 いずれもご自由にご参加下さい

聞法会 毎月2日夜7時から、「御文」のお話、座談会をやっています（1月、8月はお休み）2時間ほど

グリーンケアの集い「微妙音」 八月お休み
毎月5日午後2時より2時間ほど

白色白光の会（婦人会） 毎月第2木曜午後1時
お経（正信偈）の練習と法話と茶話会

仏像なぞり書き、塗り絵「仏像描くぞう」

毎月、第2月曜午後3時と月の最終日曜日午後3時から1時間
参加費三百円（初回のみ別途テキスト代千円）

照久山 順正寺 東京都練馬区石神井町三十七・四
お問い合わせ。午前9時から午後5時まで

03-3996-2064

それ以外の時間緊急の場合

080-5464-9136